

令和5年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1493600058	事業の開始年月日	平成18年10月1日
		指定年月日	平成18年10月1日
法人名	ALSOK介護株式会社		
事業所名	グループホームみんなの家・横浜飯田北 I		
所在地	(〒245-0018) 神奈川県横浜市泉区上飯田町3795-9		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和5年10月20日	評価結果 市町村受理日	令和6年1月22日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・季節の行事開催や入居者様と職員での作品制作、作品の掲示などで季節感を感じていただいております。
- ・一言通信は各入居者様ごとに個別のものを作成しご家族様に送付することで1ヶ月のご様子がより伝わるよう工夫しています。
- ・定期的に事業所ブログを更新し日々のホームの様子を発信しています。
- ・毎月地域活動を行い、事業所の行事し地域の方を招待しています。
- ・職員がやりがいを感じ、働きやすい職場環境作りに取り組んでいます。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23 日土地山下町ビル9F		
訪問調査日	令和5年11月10日	評価機関 評価決定日	令和5年12月8日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

- 【事業所の概要】**
当事業所は、相鉄いずみ線のいずみ野駅またはいずみ中央駅からバス便で10分弱、最寄りバス停から徒歩5分ほどの場所にある。バス停前には大型の商業施設、事業所までの道沿いに地区センター、隣接して小学校がある。周辺は戸建ての住宅と農地が混在する自然豊かな環境がある。事業所の隣には同一法人の「みんなの家・横浜飯田北II」があり、今年度に入り、合同の行事や避難訓練等を再開している。
- 【職員の運営意識の向上】**
毎月、職員全員参加で全体会を行い、管理者が法人から示された事業計画に基づき運営報告や方針等を伝達することで、職員に運営意識を持つようになった。また居室担当の他、防災、備品、物品、理美容等の各職員の担当を決めて、課題等を話し合っている。ボトムアップで意見を出し合っている。運営意識を持つことによって、職員自らが個々のスキルアップにも目が向くようになり、資格取得に繋がっている。
- 【I・II合同の取り組みや日常的な交流や連携】**
隣接する事業所との間の庭沿いのテラスが、双方の職員や利用者の交流の場となっている。職員が休憩時間に利用したり、利用者が気分転換の為、外気浴に出た際に、互いに挨拶を交わしたり、話かけたりしている。日常の交流の他、今年度は、家族も参加して合同の夏祭りを開催して楽しんだ。12月には、合同のクリスマス会兼忘年会を開催する予定にしている。一方の管理者が不在で、職員が判断に迷った時には、他方の管理者に相談できる体制ができています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームみんなの家・横浜飯田北 I
ユニット名	1U

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

事業所名	
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は職員からアイデアを募り決めました。各ユニットの事務所に掲示し、新入職の職員にも伝え実践に繋がられるよう努めています。	事業所理念の・利用者が「おはよう」から「おやすみ」まで安心して過ごせるホーム・職員と利用者が笑顔あふれる「みんなの家」は、約5年前に、自らが目指すグループホームについて、職員で話し合っって作成した。職員は日々業務に就く前や、ケアに迷った時などには、事務所内に掲示されている理念を都度確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しています。事業所の行事を地域の掲示板で宣伝させて頂き地域の方を招待しています。	自治会に加入をして地域の一員として回覧板で地域情報を得ている。コロナ禍以前は隣接の小学校の運動会に招待されたり上飯田地区センターの文化祭に出かけて、地域の方と交流をしていたが、現在は散歩や、近所の商店に買い物に出た時に挨拶を交わすのみになっている。事業所が発行している「一言通信」や「飯田北I通信」をエリア外の地域ケアプラザに持参して地域とのつながりを構築している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	1月にはZoomを使ったオンラインミーティング形式で上飯田中学校のふれあい体験学習に参加しました。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	書面開催が続いていましたが、本年度7月より対面での開催を行っています。月に1回、町内会長、地域ケアプラザ担当者、泉区高齢・障害支援課担当者等に事業所の活動状況を報告し、ご意見を伺いサービス向上に繋がっています。	運営推進会議は、今年度から対面開催を再開している。7月、10月の会議には、泉区高齢・障害課職員や、地域包括支援センター職員などが参加をして、事業所の活動報告や地域情報などについて意見交換をしている。コロナ禍前には家族の参加もあったが、現在、家族の参加はない。	運営推進会議に利用者、家族の参加がありません。利用者や家族に事業所の運営に関心を持っていただき、意見や要望を伺う事が大切です。会議への参加案内や、会議の報告書を送付される事を期待します。また近隣の小学校や地区センターにも参加を呼び掛けることを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	泉区の高齢・障害支援課の職員と運営推進会議等の場で空室情報や受入基準等の情報交換をしています。	管理者は、地域や行政担当者との繋がりを重視して、地域ニーズの把握や情報を得るため、担当エリアの地域包括支援センター以外の近隣の複数の地域包括支援センターに出向いて、関係の構築に努めている。区のケースワーカーに、生活保護を受給している利用者の状況報告や相談をするなどして、連携を取っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化検討委員会を年4回実施しています。身体拘束等の適正化のための研修は全職員を対象に年2回実施しています。束縛のないその方らしい生活支援について検討し、実践しています。	法人の「身体拘束禁止のための指針」に基づき、法人から提示されたテーマに沿った委員会や研修を実施している。委員会や研修では動画を見て各職員が理解度テストを行い、意見交換をしている。職員がスピーチロックなど、利用者の行動制限に繋がる声掛けをした際には、自ら、すぐに気付いて言い換える事もある。利用者が処方された向精神薬の副作用にも配慮し、利用者の様子を頻回に看護師や薬剤師に報告して、ドラッグロック対策をしている。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止委員会を年3回、高齢者虐待防止のための研修を年2回実施しています。尊厳を重視した適切な認知症介護を理解し取り組むことで、拘束や虐待のない事業所作りに努めています。	「虐待ゼロへの行動指針」を玄関に掲示し、虐待のないケアの実践に努めている。トイレを頻回に訴える利用者の対応がすぐにできないことがネグレストになっていないかについては、薬の処方等の医療面や、声掛けの工夫などの改善策を職員間で話し合っている。職員のストレス軽減に、中庭のテラスで隣の事業所の職員との交流が気分転換になっている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内の研修を受講して学ぶ機会をいただき、そこで得た知識、情報については毎月の職員会議で共有しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご契約前の実態調査では、出来るだけ時間をかけ、サービスについてのご説明を行うとともに、ご家族様の疑問やご要望についてお伺いし、信頼関係を築くよう努めています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回の家族会を通じて、ご家族様のご意見やご要望をお伺いしています。また、ケアプラン作成の際にもご希望を十分に伺うよう努めています	今年度から、年2回の家族会と、予約制をとり、通常の面会を再開している。家族会は家族間の交流や職員とのコミュニケーションの場となっている。毎月の「一言通信」やホームの行事を掲載した「飯田北Ⅰ通信」に利用者の写真を添え、家族に状況報告をしている。またブログを活用して事業所内での日常の利用者の様子をタイムリーに発信し、家族の安心に繋がっている。また、ブログに掲載されたレクリエーションや生活の様子を見て入居された方もいる。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の見解や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月全体の職員会議、各ユニットごとの職員会議を行い、職員の気付きや意見を聞く機会を作っています。また、必要に応じて面談を行い、職員の思いを引き出すよう努めています。	毎月、職員全員での全体会議とカンファレンス兼フロア会議を行なっている。全体会議では法人から示された事業計画に基づき運営報告や方針等を伝達して、職員に運営意識を持ってもらうようにしている。また居室担当の他、防災、備品、物品、理美容等の各職員の担当を決めて、課題等を話し合っている。ボトムアップで意見を出し合い、利用者の起床時に業務が集中する為、業務の時間配分の見直しや、前日の入浴準備を当日の準備に変更するなどの業務改善に繋げている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人で行っているGST(Good Service Thanks)カードの他、事業所内でホーム内表彰を行い、些細な事でも努力や尽力された職員の表彰を行っています。	管理者は、人事考課を兼ねた年2回の個別面談の他、職員の時々の思いや、不満等を汲み取るために、個別に話す機会をできるだけ多く作って、風通しの良い職場環境の整備を心がけている。必要があれば、法人のエリアマネージャーと連携している。半年毎に、会議での発言や業務での努力やケアの工夫等を評価し、表彰して、職員の職務への向上心に繋げている。産休や育児休暇制度があり、現在、産休から復帰した職員もいる。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修や動画視聴による研修を定期的に開催しスキルアップに繋げています。事業所内での実技研修も行っています。	法人は、受講料補助や受講日を勤務扱いにする等して、職員の資格取得を支援している。各職員は、目標を定め、自らのスキルに応じた資格を取得している。また法人の研修計画から研修項目を選択して勤務時間に受講している。資格取得を自ら目指す職員もいるが、管理者が資格取得を勧める事もある。また日常業務内で、職員の得意な分野を生かす取り組みをしている。ケーキ作りの得意な職員は利用者の誕生日ケーキ作りを担当している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横浜市グループホーム連絡会に加入し、情報の共有を図っています。近隣のグループホームと合同のイベントを開催するなど普段から交流をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居前の実態調査では、ご家族様だけでなく、ご本人のお話を傾聴する事に重きをおいています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査、ご契約などの時間と機会を利用し、コミュニケーションを図り、信頼関係の構築に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	シニアセラピーや訪問マッサージの利用等をご提案させて頂いています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物や食器の後片付けなどの日常の家事手伝いをお願いしたり、行事の準備などを一緒に行い、共に生活する中での役割分担を図っています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月お送りしている「一言通信」の写真と文章で、ご利用者様の日常の様子を分かりやすくお伝えするとともに、お変わりがあった際はお電話でその都度ご報告やご相談をさせて頂いております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご親戚、ご友人との面会の際は居室で寛ぎながら談笑できる環境の提供に努めています。	今年度に入り、感染症対策を講じて、家族に加え、親類や知人、友人の面会を再開している。通院や家族と外出時に、身支度に気を遣う方には、アクセサリーやスカーフなどを身につけるお手伝いするなど、利用者の生活習慣や趣味の継続を支援している。新聞を購読している方の支援をしている。習字の得意な方には、運動会のプログラムを書いてもらった。その時の写真を家族に送り喜ばれている。編み物が好きな方は、熊の編みぐるみを作り、居室に飾り楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が安心して穏やかに過ごせるよう、食席に配慮しています。1、2階合同のレクリエーションや隣のホームと合同のイベント等で交流を図っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ホームでの思い出の写真をお送りし、ご退去後も飯田北Ⅰの事業所が身近な存在と感じて頂けるよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご家族様からの情報や日常の会話から思いをくみ取り、入居前からお好きだったことを出来るだけ継続できる環境の提供に努めております。	入居時の介護計画は、利用者の思いや意向を聞くことを重視して作成している。職員は散歩や入浴時など利用者と1対1になった時に、利用者に寄り添いながら話を聞き、思いや意向の把握に努めている。特に他の利用者に対する不満などは、職員間で共有し、迅速な対応を心掛けている。発語や意向の把握が困難な方には簡単な単語での問いかけや、利用者が、はい・いいえで答えられるような問いかけをして、判断する場合もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前に作成する「フェイスシート」を元に今までの生活歴、志向を探り、介護サービス計画に反映しています。また、ご家族様から何うお話は貴重な情報となっております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	支援に関わる職員の気付きを日々の申し送りで共有しております。また、医療連携看護師と常に利用者様の状態を共有しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者だけでなく、介護職員、医療連携看護師、訪問診療医師、看護師と連携し、利用者様個々に適したサービスが提供できるよう介護計画を作成しています。	入居時の介護計画は、通常の介護計画と同様に長期1年間、短期6か月で見直しをしている。モニタリング、担当者会議は3か月ごとに行っているが、毎月のケアカンファレンスを兼ねたフロア会議で、利用者全員の状況を話し合い、利用者の状態に変化があった時には必要に応じて、随時介護計画の見直しをしている。職員はミーティングや申し送り、ケア記録、医療情報等を確認してケアの統一を図っている。日々のケア記録は、タブレットを用い、利用者ごとの「24時間プラン」に記録している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録に記入するほか、特変事項は支援経過にも記載し介護計画を見直す際に参考にしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問販売の利用や訪問理美容の提供をしています。外出レクも実施しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの受入をしています。イベントに地域の方を招待するなどの交流も図っています。		
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご契約時に歯科の訪問診療の同意書を頂いています。協力医療機関とも後日契約を結んで頂いております。月2回の内科往診は薬剤師も同行しております。	月2回、利用者全員が協力医（内科、皮膚科、歯科）の訪問診療を受診している。歯科は月2回の医師による診察に加え、週1回、歯科衛生士が来所し、口腔ケアをしている。他の専門科には家族同行で通院している。受診内容は「通院報告書」に記録して職員間で共有している。毎週、法人の訪問看護師が利用者の健康管理に訪れ、「医療連携看護師連絡記録」で職員と情報を共有している。内科医の訪問時には薬剤師も同行のうえ、薬の変更などにも迅速な対応をしてくれる。薬袋と利用者の座席のQRコードで確認できる服薬管理システムを導入している。更に職員がダブルチェックを行い、誤薬防止に努めている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	「医療連携看護師連絡記録」を利用し、介護職員と連携看護師の情報共有、ケアのアドバイス等が柔軟に行える関係を築いています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	訪問診療医であるやよい台内科・皮膚科と協力体制を築いています。また、他医療機関であっても電話にて状況をお伺いし状況把握に努め早期退院出来るよう努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医であるやよい台内科・皮フ科、医療連携看護師と利用者様の終末についての判断と支援の方向性を共有し、ご家族様にご相談させて頂いています。	契約時に事業所の「重度化した場合の対応にかかる指針」を説明している。利用者の重度化が進み、医師が終末期と判断した時点で、医師も同席して事業所の「看取り介護の指針」に基づき、看取り介護や事業所ができる事、家族の関わり等について説明をして、同意を得ている。年1回の看取りの研修や、看取り後の振り返りで、看取り介護について学んでいる。昨年から今年度にかけて、1名の方の看取りをしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変時のフローや対応について掲示しております。また、緊急時の基本対応に関し新たなマニュアルを作成いたしました。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の指導のもと緊急時避難訓練を実施しております。隣接するみんなの家・横浜飯田北Ⅱとの協力体制も築いております。	今年度は、隣接し合う2つの事業所が合同で、消防署の立ち会いの下、利用者も参加して日中の火災想定避難訓練を行っている。11月には、再度消防署の立ち会いで、AEDの講習も含めた夜間想定避難訓練を予定している。法人のBCP計画も策定しているが、地域との連携などの課題もある。リビングや居室内は整理整頓が行き届き、家具や電気製品の転倒防止などの減災対策をしている。災害用の備蓄はリストで管理しているが、熱源や、保温シート、簡易トイレ等の備品に関するリストの作成には至っていない。	法人作成のBCP計画に沿った避難訓練の実施が実現できていません。隣接の小学校や近くの地区センターなどにも運営推進会議への参加を依頼して意見交換をする機会を持たれる事を期待します。また、備蓄品リストに加え、必要な備品類の見直しを兼ねた備品管理リストの作成を期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「虐待防止委員会」を通して、適切な認知症介護について学びを深め、利用者様が安心して感じる言葉かけに取り組んでいます。	職員は、利用者を人生の先輩として敬い、プライバシーを尊重して対応する事を常に心がけている。トイレ誘導の際は、利用者に寄り添いながら小声で声をかけている。訪問当日、職員や利用者の大きな声が一切なく、穏やかな雰囲気が見て取れた。毎年、個人情報保護のセルフチェックを実施して、個人情報の保護に努めている。個人情報を含む書類は鍵のかかるキャビネットに保管し、パソコンはパスワードを設定して管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入浴や就寝介助、散歩など利用者様と一対一になる時間を利用し、利用者本位の生活支援を探っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のスケジュールを決めることなく、その日その日の利用者様の状態、お顔色を読み取る様努め、望まれる過ごし方が提供できるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は出来る限りご本人様に選んでいただいています。散歩や外気浴の際は、帽子やスカーフなど小物にも気を配っています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	されている。	3食ともにレトルト食品が委託先から配達され、湯煎で温めて提供している。嚥下に問題がある方にはムース食やソフト食を提供している。炊飯と汁物の調理は職員が担当している。行事食や弁当、海鮮丼や刺身等も提供され、利用者はバラエティー豊かな食事を楽しみにしている。月1回、ご当地料理や外国料理を提供し、利用者に喜ばれている。誕生日にはお菓子作りの得意な職員が手作したケーキでお祝いをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	給食会社の方で栄養バランスに配慮した献立を作成しています。また器や形状の工夫も行い、必要に応じて支援計画にも反映させています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	全利用者様に口腔ケアの仕上げ介助を行っています。口腔ケアを嫌う方には、受け入れやすい声掛けを支援計画に盛り込んでいます。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定期的なトイレの声掛けや誘導を行っています。しかしながら立位をとることに大きく負担を感じている方には無理強いしない支援も行っています。	布のパンツを使用して自立でトイレに行く方や、リハビリパンツにパッドを使用して自分でパッドを交換する方もいる。ほとんどの方は、「24時間プラン」の排泄記録に基づいて定時誘導や声掛けで、トイレで排泄をしている。座位が取りにくくなったり、体調によっては、全介助でオムツを使用したり、夜間は睡眠を優先して夜用のパッドを使用するなど利用者にてできるだけ負担をかけない支援をしている。トイレは常に清潔を心がけ、手の触れるところはアルコール消毒をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	服薬に頼るだけでなく、十分な水分補給と適度な運動の提供に努めています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は固定していません。無理強いはしませんが、定期的な入浴が提供できるようチェック表を作成しています。また、2Fの利用者様も曜日を決めて1Fのリフト浴をご利用いただいております。	入浴は週2回を基本とし、午前中に3名の方が入っているが、入浴を好まない方には、時間や介助する職員を変えるなど柔軟に対応している。同性介助の希望する場合は対応しているが、現在、希望者はいない。浴室は広めで三方から介助できる浴槽と、1階にはリフト浴が整備され、浴槽を跨げない方も湯に浸かる事ができている。2階の利用者も曜日を決めて使用している。浴室と脱衣場には温風ヒーターが整備して、冬場のヒートショック対策をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	「活動」だけでなく、「休息」も必要な支援と捉えています。就寝時はパジャマ更衣をして頂いたり、必要に応じて清拭、陰洗を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診医、医療連携看護師、連携薬局の薬剤師と連携し、服薬支援を行っています。薬の目的等は往診記録に記載し回覧しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎月1回のパンの訪問販売は皆様大変楽しみにされています。日々の体操や外気浴等の他お一人お一人の楽しめる事を行えるお時間を提供しています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の散歩や外気浴で外気に触れる機会を作っております。ご家族様のご協力のもと外食や選挙に出掛けられる方もいらっしゃいます。	天気の良い日には、車いすの利用者も一緒に近隣の小学校の周囲を散歩している。隣接する「みんなの家横浜飯田北Ⅱ」につながるテラスで隣接の利用者と外気浴をしながら交流をすることもある。外に出ると子供の遊ぶ様子や声が聞こえ、利用者の楽しみにもなっている。月に1回、パンの移動販売車が訪れ、利用者は好きなパンを選んで購入することを楽しみにしている。今年度から家族との外出が再開し、法事に参列したり、白寿のお祝いや、ひ孫に会う為に出かける方もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は事業所、ご家族様で行っていますが、欲しいものが購入できるよう支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お電話でご家族様やご友人とコミュニケーションを取られる機会も多いです。ご友人やご親戚と手紙のやり取りをされている方もいらっしゃいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとの作品を制作して頂き、共有スペースに飾らせて頂いています。またTVがつけっぱなしにならないよう状況に応じて馴染み深い音楽のCDを流したりしています。	隣接する事業所に面した大きな掃き出し窓から、天気の良い日には明るい日差しが差し込み、冬場でも日中は暖房が不要なほど暖かい。食堂兼リビングには、空気清浄機が設置され、冬場は加湿器で湿度管理をしている。時間を決めた換気やアルコール消毒で感染症にも備えている。共有部分の壁には日時を意識してもらう大きな日めくりカレンダーや、季節に応じ利用者が共同制作した貼り絵を飾り、季節感を演出している。利用者はフロアのテレビを利用したALSOK体操やリモートで他の事業所とつないだ運動会等を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのソファやベランダ、テラスなどは利用者様同士の社交場となっています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具やお仏壇をお持ちになる方もいらっしゃいます。ご家族の写真や行事の際に差し上げた賞状などを飾り、楽しかった思いを心にとどめて頂けるよう努めています。	居室には、エアコン、照明、クローゼット、チェスト、介護用ベッド、寝具一式、防災カーテン、洗面台が用意されている。利用者は自宅で愛用していたたんすやいすなどの家具類、テレビや時計、カレンダーなどの生活用品などを持ち込んで。チェストの上には自作の作品や家族の写真などを飾り、思い思いの部屋にしている。利用者は、食後のひと時を居室で新聞を読んだり、編み物をしたり、横になってくつろいだりしながら過ごしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	導線上に障害物がないよう気を配り、利用者様が安全に移動できるよう努めています。後ろから名前を呼ぶのではなく、歩かれている方に寄り添う支援に努めています。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 GHみんなの家・横浜飯田北 I

作成日 2024. 1. 15

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議に利用者、家族の参加がない。	運営推進会議のご家族様の参加を促進し、運営状況、地域情報を共有する。	毎月送付している「一言通信」で運営推進会議の意義等をご説明する文書を送付しご家族様の参加をお願いする。入居者様もご参加いただけるよう声掛けをしていく。	6ヶ月
2	35	BCP計画に沿った避難訓練の実施が出来ていない。備品管理リストがない。	自然災害により被害があった際も業務を継続出来るよう訓練を行う。備品管理リストを作成し在庫の過不足をなくす。	BCP計画に沿った避難訓練を来年度の上半期中に計画し実施する。備品管理リストは作成済。	9ヶ月
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
 注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。